

街路灯



地域防犯のための街路灯は、町会が設置費、電灯料を支払って管理・運営しています。

環境美化



地域が住民にとって心地よい空間であるために、清掃活動や花壇整備を行っています。

安全・安心



地域の安全・安心のために、巡回パトロールや災害時の共助のために防災訓練に取り組んでいます。

親睦



地域の方々と顔が見える関係であるために、さまざまなイベントを実施しています。

健康づくり



地域の方々が健康で元気に日々の生活を過ごせるよう、健康増進に努めています。

見守り



地域の宝である子どもたちの安全のため、小学校の通学路に立って見守っています。



【写真】石川町会「雪中運動会」の様子



函館市町会連合会 会長
江頭 進さん

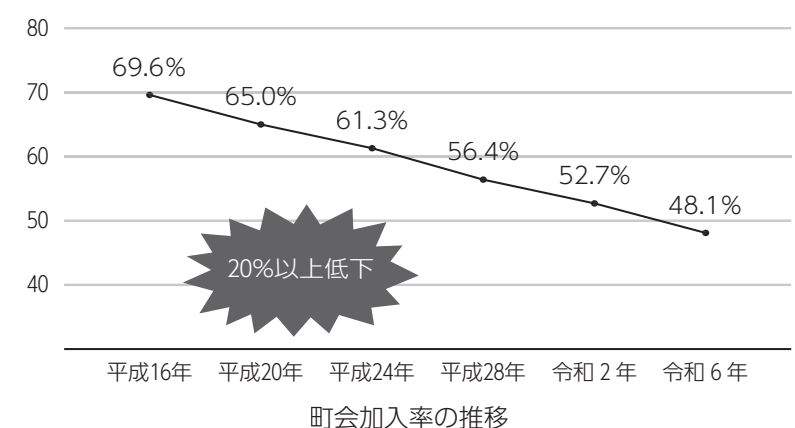
地域での絆を町会で育む

人口減少に伴って町会活動の担い手が減っています。地域には、色々な経験をお持ちの方がおりますが、町会では誰もが対等です。季節に応じて開催される様々な行事を通じて、地域での絆を町会で育んでほしい。気づけば、初めましての関係が、お互い柔らかい表情に変わっています。

私が最初に町会の役員を引き受けたのは20年以上前になります。初めは嫌々でしたが、企画に携わり、地域の皆さんの喜ぶ顔を見てやりがいがありました。

町会役員は高齢となり、若い方には敷居が高いかもしれませんが、地域を良くしたいとの想いは同じです。若い力をぜひ町会で生かしてほしいです。

特集
町会について
こう三軒両隣。相互扶助。幼い頃、近所に醤油や塩を借りた経験はないでしょうか。近所同士のふれあいや何気ない繋がりが、素敵な関係の礎となり、それが困難に立ち向かう時の強い絆となって、やがて郷土愛を育み、住む人にとってかけがえない思いやりのある地域を作ります。町会とは、同じ地域の住民がお互いに助け合い、支え合いながら生きていくために必要とされて生まれ、一人では解決困難な地域課題に対して、住民同士が協働で取り組むことができる最も身近な存在です。町会の役割や必要性が見えにくくなった今だからこそ、若い世代の新たな風を必要としています。



町会は“地域の優しさ”からできている

時代の遷り変わりとともに、町会に求められるニーズやあり方が変化しています。ですが、「地域のために、そこに住む仲間とともに」という町会が地域を想う気持ちだけは、ずっと変わりません。日頃、当たり前にある街路灯の明かりや綺麗な街並み、子どもの見守りなど、普段、忘れがちな地域の優しさが失われることがないよう、今より少しだけ町会に目を向けていただき、町会とともに地域を育ててくださると嬉しく思います。最近では、SNSで活動を投稿している町会も増えています。この機会にぜひ、ご覧ください。

／ 申込フォームから加入できます ／



市民部町会等担当課長
小林 さん



市HP

町会の加入はこちら

instagram



YouTube



スマホの向こうに、安心が見えた日。

谷地頭町会が挑んだ、デジタルでつながる避難訓練。災害が起きたとき、避難所にいる人も、自宅にとどまる人もいる。谷地頭町会では、市公式LINEを使って、デジタル避難訓練の実証試験を実施。避難所に来られない人の声をスマホで吸い上げ、避難所に来た人は、その場で「到着を伝えることができる」仕組みが機能するかを検証しました。



谷地頭町会が挑んだ新しいカタチの避難訓練

「避難訓練」と聞くと、少し堅い印象を受ける人もいるかもしれませんが、今年の谷地頭町会の訓練は一味違いました。函館市と協働し、市公式LINEを活用した「デジタル避難訓練」として実施しました。避難所では、掲示された二次元コードをスマートフォンで読み取るだけで受付が完了。訓練ではダミーデータを使いましたが、氏名のふりがなと生年月日を入力すると住所などが自動的に反映され、高齢者でも迷わず操作できるよう設計されていました。

参加した住民からは「思ったより簡単だった」「デジタルでも人の温かさを感じられた」といった声が寄せられました。

避難所外避難者を可視化 共助モデルの検証

今回の訓練では、避難所に来られない在宅避難者や車中泊避難者も対象としました。町民はLINE上で現在地や「食料が足りない」「送迎が必要」といった支援ニーズを申告でき、その情報が地図上に即時反映されました。



移動が難しい高齢者などからの送迎要請を受け付け、自主防災組織が地図情報をもとに搬送支援を行いました。これにより、取り残されやすい避難所外避難者に対しても、住民同士が手を取り合うことができ、助けを求める人と助けに行ける人がデジタルでつながり、新しい共助のカタチを検証しました。



谷地頭町会会長 伊豆 さん

人をつなぐデジタル 地域を変える第一歩

谷地頭町会の避難訓練は、最初からデジタルを使うと決まっていたわけではなく、「坂道が多いこの地域で、どう避難すればいいのか」「避難所に来られない人をどう支えるのか」そんな住民の声が出发点でした。話し合いを重ねる中で市企画部の地域デジタル課と出合い、町会と行政が一緒に、市公式LINEを活用した新たな避難訓練の提案がありました。

役員会では「スマートフォンが苦手な人でも使える仕組みにしたい」と意見を出し合い、地域デジタル課がLINE上

に機能を実装しました。そんな試行錯誤を繰り返しながら、「誰にでも使えるやさしいデジタル」という考え方が少しずつ形になっていきました。

訓練当日には、子どもから高齢者まで多くの住民が参加しました。「これなら自分たちでもできる」「デジタルって便利なんだね」という声が上がリ、参加者の表情には安心と達成感が広がっていました。

やってみて感じたのは、デジタルは人を遠ざけるものではなく、人をつなぐ道具だということです。そして、地域と行政が力を合わせれば、どんなことでも始められるんだと実感しました。



自分たちのまちは自分たちで守る

私自身も谷地頭町会の一員として今回の訓練に関わりましたが、町民同士が声をかけ合い、主体的に動く姿にとても心強さを感じました。特に、避難所に行かない方への共助の仕組みづくりは、私たちにとって新しい挑戦でした。デジタルの力を取り入れることで新しい共助のカタチが少しずつ見えてきたと思います。

一方で、課題もまだ多くあります。今回のように実際の災害時に物資を届けようとする、人員の確保など現実的な難しさも残っています。そうした課題を整理しながら、今後は地域と行政が協力し、実際に運用できる仕組みへと磨いていきたいと考えています。

これからも地域の仲間として、「自分たちのまちは自分たちで守る」という思いを大切にしながら活動を続けていきたいと思えます。今回の訓練は、その未来への一歩となる、とても良い機会になりました。



函館市防災士会 谷地頭町会副会長 鈴木 さん